

吉井良秀 よしひら 郷土史家、歌人。嘉永六年一月（一七八）攝津國西宮
 生れ、昭和十四年一月二十五日歿（一八三—一九元）。幼名松司。號くす
 その、よし秀、樟園、武庫之人、辛古之（乃）人、甲南、磐楡樟園、
 磐楡章園、福祠畔人、豫章等。藤田友悦、中谷龍壽軒、秋良貞温に漢
 書を學び、父良幹、岩崎長世、渡邊重春に就き國書神典を修めた。の
 ち飯田武郷にも師事、中村良顯に歌文の添削を受けた。明治六年大國
 主山神社祠寧を拜命、爾來五十餘年神官、大正十五年西宮神社社寧と
 最後い辭す。その後は和歌教授、史蹟探究等も過し、取分け郷土史研
 究では在職中から『考古學雜誌』、『史蹟名勝天然紀念物』等、多數
 くの論文を寄稿。
 著書に『武庫の川千鳥』（大正十年刊）、『西宮夷神研究』（昭和十
 年刊）等の他、遺文、年譜、追憶集を収めた『樟園餘影』（昭和十五
 年一月）二十五日兵庫・吉井良尚編刊）がある。

